

ご挨拶

近年、インバウンド需要の高まりを背景に訪日旅行者が増加しておりますが、本学部でも海外からの留学生が緩やかに増加しております。一方、国内外の留学生を取り巻く環境には、この半年で先行きの見えにくさが生じており、よりきめ細やかな対応が求められる状況となっております。

国際交流推進室では、こうした変化を注視しつつ、来日学生への生活・学修面での支援を強化するとともに、海外留学に挑む学生への支援体制も拡充してまいります。また、COIL(オンライン国際協働学習)を活用したプログラムにも取り組み、多様な国際交流の機会を拡げてまいります。今後とも、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2025年7月  
信州大学繊維学部 国際交流推進室長  
小林 俊一

留学生ガイダンス・交流会

5月29日に上田警察署、上田市多文化共生推進協会、上田市立美術館、一般財団法人千曲会の皆様にご協力いただき、留学生ガイダンスを開催しました。ガイダンスでは、本年度グローバル化推進センター新任のパレラ先生司会のもと、留学生が日本で生活するうえで守るべきルールの説明等があり、皆真剣に耳を傾けました。



ガイダンスの後には、引き続き留学生歓迎交流会が開催されました。教職員・日本人学生を含む70名程が参加し、軽食を囲みながら歓談やゲームに興じ、交流を深めました。



今回の交流会が、学生それぞれの日本での思い出の一部となり、今後のより良い学生生活につながることを願っております。



海外研修を終えて

2025年度春季フランス・リール大学語学・文化研修に参加しました応用生物科学科2年の武村優です。午前中はフランス語の授業、午後は探究活動や現地学生との交流を行いました。英語中心の会話でしたが、フランス語で話しかけたり、フランス語の話題を出したりすると距離が縮まり、相手の文化を理解しようとする姿勢の大切さを実感しました。お互いの国の流行音楽や映画を紹介し合う時間はとても楽しく、フランス文化への関心が一層深まりました。



第二言語を学ぶことは、言語習得にとどまらず、異文化理解や国際的な視野を広げる大切な手段であると感じました。研修から半年経った今も、SNSを通じて連絡を取り合う大切な友人が出来たことが、何よりの財産です。今後もフランス語の学習を継続していきたいです。

### 大学間交流協定に基づく交換留学派遣プログラム

2023年9月からマレーシアブトラ大学農学部へ1年間の交換留学をしました化学・材料学科4年の松岡琉です。この留学を通して多くの学びとかけがえのないものを得ました。私の専攻は化学ですが、留学先では農学部に所属し、座学に加えフィールドワークを通してマレーシアならではの農法や生態系保全を実践的に学びました。また、初めての海外生活は全てが新鮮で、他の留学生との交流等を通じて、日本人の特性や自身のアイデンティティを再認識できました。

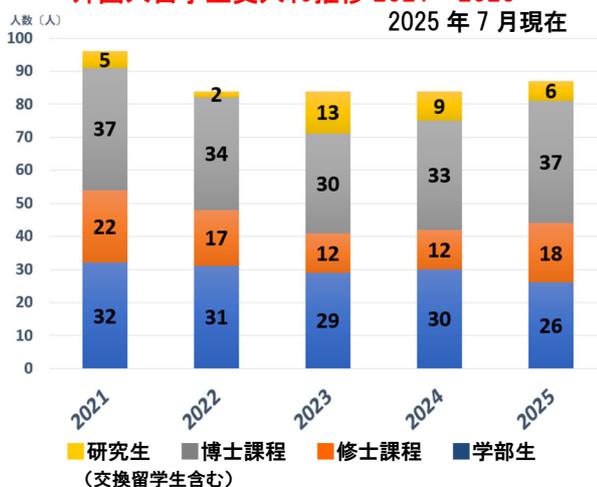


この留学では、英語力や異文化理解力など多くのものを得ることが出来ましたが、何よりも現地で出来た友人が一生涯の宝物となりました。これは留学前には想像もしていなかったことです。留学を迷っている方には、とにかく挑戦してほしいです。お金や言語、現地での生活は何とかなります。楽しむ気持ちを忘れずに挑戦すれば、きっと想像以上の素晴らしい経験になると思います。

### 繊維学部 外国人留学生の動向

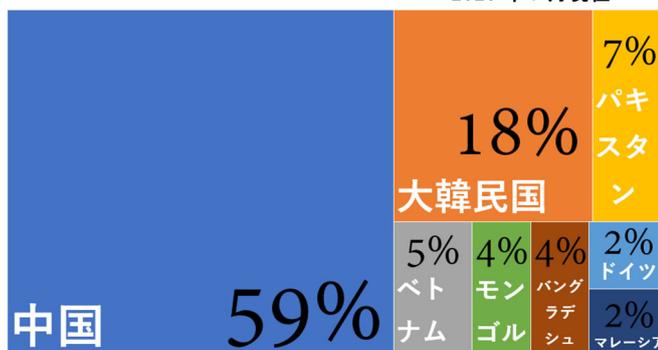
2025年前期に、8名の博士課程学生、10名の修士課程学生、4名の学部学生、6名の研究生(交換留学生含む)が入学しました。7月現在の繊維学部(修士課程、博士課程含む)の留学生総数は87名になりました。

#### 外国人留学生受入れ推移 2021~2025



#### 外国人留学生出身国(地域) 割合

2025年7月現在



### 国際交流推進室 室員紹介(教員)

室長: 小林 俊一(機械・ロボット学科)  
副室長: 朱 春紅(先進繊維・感性工学科)  
室員: 金 翼水(機能・ロボット学科)・金 灵屋(先進繊維・感性工学科)・金井 博幸(先進繊維・感性工学科)・施 建(機械・ロボット学科)・平田 雄一(化学・材料学科)・高島 誠司(応用生物科学科)・リ ジハ(繊維科学研究所)・ウラ アジーム(繊維科学研究所)・バレラ ジャスティン(グローバル化推進センター)  
本ニュースへのご意見、ご要望などありましたら、国際交流推進室メールアドレス

(fkokusai@shinshu-u.ac.jp)へお寄せください。

◆国際交流推進室ホームページ◆

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/current/exchange/>